

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473201091	事業の開始年月日	平成17年3月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	医療法人社団優和会		
事業所名	グループホーム華寿園		
所在地	(〒241-0014) 神奈川県横浜市旭区市沢町571-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和3年3月15日	評価結果 市町村受理日	令和3年6月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

華寿園ではご利用様が生き生きと暮らすために、自立支援を基本にご本人がそれぞれ持てる力を発揮できるように支援することを日々行っています。ご本人様ご家族様と職員の三者が力を合わせて行くことで、ご利用様の心の安定とご家族様等と職員間の信頼関係が築かれていくことにつながると考えています。共に生活する中でいつも笑い声が聞こえる暖かな雰囲気作りに努めています。社内研修も月に一回ごとにテーマを決め実施しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和3年3月17日	評価機関 評価決定日	令和3年5月31日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【概要】 この事業所は、JR横須賀線東戸塚駅よりバスで約10分、バス停より徒歩1分の幹線道路から、住宅地に入った場所にある。近所には外科病院があり、検査が必要な時にはすぐに受診することができる。2階建て2ユニットの建物は、やや傾斜地にあり南に広い明るい事業所である。法人は、健診クリニックと健康管理センターを有する医療法人で、介護部門として2つのグループホームと4つのデイリハセンターを運営している。 【施設をしない介護の継続】 事業所は開所時より施設をしない介護を継続している。玄関には、家庭用ベルがあり来客に対応し、ユニット間の移動は自由である。現在はコロナ禍のため自粛しているが、ユニット間でおやつをおすそ分けしたり、調味料の貸し借りをしたりと近所付き合いのような関係を築いている。また、利用者は職員と一緒に次の家に回覧板を回し、地域の一員として生活している。 【食事を楽しむことの支援】 事業所は、毎日の食事を職員と利用者が一緒に作って一緒に食べている。特に昼食は、食材のカタログを見ながらメニューを一緒に決めて注文している。敬老の日には利用者の希望により、寿司の出前を取り、年末には煮しめや、なます、栗きんとんを作りメインのおせち料理に添えた。また庭で育てたほうれん草と水菜を収穫して皆で季節を味わっている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム華寿園
ユニット名	すみれ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念（その人らしさを大切に、笑顔の絶えない毎日）とあり、一人一人に合わせた自立支援を心がけています。	昨年6月に法人介護部門からのアドバイスを受けて各ユニットで話し合い、理念を新たに作成した。自立している方が多いユニットは「個々の意思を大切に穏やかな生活」とし、重度の方が多いユニットは「その人らしさを大切に笑顔の絶えない毎日」とした。職員は毎月の会議や運営推進会議で話し合い、一人一人と丁寧に向き合う介護に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に運営推進会議を開催しています。新型コロナウイルスの影響で毎年行っていた地域行事等の参加が出来ませんでした。	市沢団地住宅の自治会に加入し、利用者は職員と一緒に回覧板を次の家に回している。コロナ禍により、例年の地域の行事（祭り・防災訓練など）、ボランティアの来訪（三味線・コーラスなど）、中学校の体験学習が中止となった。毎年10月に地域の方も参加して行う防災訓練が恒例となっており、今年開催を期待されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで認知症の人の理解や支援方法を伝えています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの運営状況を報告し、町内会長、ケアプラザの職員さんからの情報や意見を頂き日々の支援に生かすようにしています。	運営推進会議を年6回開催し、今年度6月と11月は事業所の庭で行い、8月と9月、1月、3月は書面開催とした。参加メンバーは住民代表3名、家族、地域包括支援センター職員、法人介護部2名と管理者である。家族とのオンライン面会や窓越し面会の実施、クリスマスや正月の様子が伝えられ、参加者よりコロナ禍でも感染対策を行いながら面会支援をしていることが高く評価されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢支援課、生活支援課など担当者と連絡を取りながらアドバイスをいただいたり、連携に努めています。	高齢支援課に運営推進会議録を郵送し、生活保護受給者の担当者とは利用者の様子を伝え連携している。また障害者手帳や介護保険の申請を代行している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部での定期的な研修を行い、職員全員が理解し取り組む環境を作り実施しています。玄関の施錠はせず、一般家庭にある玄関ベルで対応しています。	「身体拘束廃止に関する指針」「虐待防止・身体拘束等の排除マニュアル」を作成し、年2回の全体研修を実施している。5名の職員で「身体拘束適正化検討委員会」を構成している。会議の中で、限られた人員体制の中でも効率優先にならないための取り組みとして、職員間の知識・技術の共有や、お互いに意見を言い合える関係づくりが提案された。事業所は開所時より玄関とユニット間の施錠をしない介護を継続している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に注意を払い、防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行い、学ぶ機会を持ち、活用できるよう周知しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族等に十分な説明を行い、理解、納得を図っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から意見、要望を聞く機会を設けています。また、家族等来訪時、または電話で気になったことなどの話をできる時間を設けています。	毎月「華寿園だより」で行事や利用者一人ずつの様子を写真とコメントを添えて、家族に伝えている。昨年の夏頃よりオンライン面会と窓越しでの面会を行っている。職員は必要に応じて電話で利用者の様子を伝え、また家族の要望を聞いて、利用者が安心できるように支援している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスでは、質問や意見を聞く時間を設けています。ほかにも個別意見や提案を聞くよう努めています。	毎月、法人介護部担当者が参加して、研修を兼ねた全体会議とユニット毎のカンファレンスを実施し、職員は意見交換を行っている。管理者が昨年4月に交代し、新体制で取り組んでいる。管理者は勤務の中で職員と1対1になる時間を捉えて職員の思いを聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体系を明確にし、不平等にならない能力の評価を給料に反映させています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマを決め、社内研修を行っています。社外研修においては新型コロナウイルスの影響を考え、今年度の研修は見合わせました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同じ系列のグループホームの勉強会に参加しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と家族と面談し、要望や困りごとを聞き、不安が軽減できるよう話しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様だけの面談も実施し、不安な点、要望などの聞き取りを実施しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	細かな様子を記録に残し、何ができるのかを見極め、やりたいことのできる支援を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動をスタッフと一緒にやり、提供するだけにならないよう心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を大切にできるようにオンライン面会のご案内やいつでも電話で話ができるように関係を築いています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との関係が継続できるように、年賀状や手紙のやり取りなどできるよう支援しています。	コロナ禍以前には来訪していた友人との関係が継続できるよう電話の取次ぎや手紙のやり取りを支援している。塗り絵や読書が趣味の方は家族に用意してもらっている。新聞は各ユニットで取っているが、個人で購読している方もいる。職員が利用者の好きな歌やビデオを流すと、利用者は一緒に唄ったり、思い出話をして楽しんでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性やその方の性格を把握し時には間に入りより良い関係になるように努めています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も管理者を中心とし、本人を訪問したり、家族と連絡を取り合っている。			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々に合わせて会話したり、生活歴で経験したことを把握し、本人の気持ちに寄り添う支援を心がけています。	入居時に、職員は利用者の生活歴を共有して利用者の理解を深めている。また利用者の好きなこと、できること、嫌なことなど家族から得た情報を職員間で共有して利用者の思いに寄り添い、よい関係性を築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の会話の中から、またはご家族から聞いたり、ご家族様の来訪時に質問をしたりして、生活歴を確認しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人との会話や現在の様子など記録し、一日の過ごし方や現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直しをし、都度本人やご家族の要望を確認をしてケアプランに反映させています。	ケアプランは利用者の状態により、短期目標は3か月又は6か月で作成し、評価と見直しを行っている。ケアプランの内容は、職員、医師、看護師らの意見が反映されている。毎日の支援経過記録には短期目標が明記されて、計画内容の実施が確認できるものとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子、気が付いたことなど細目に記入し、職員同士で情報を共有することに努め、業務に生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の訴えやご家族の意向に真剣に答える努力を怠らない姿勢で取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウィルスの関係でいつも行っていたケアプラザでのミュージックタウンへの参加が出来ませんでした。地域交流も同じくできませんでした。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	スタッフや医療チームとの情報を共有しフォローできるようにする。	利用者は提携している内科医の往診を月2回受けている。また、必要があれば隣の外科病院で検査等、早期に対応することが可能である。看護師、訪問歯科、訪問マッサージ師が毎週来訪し、利用者の健康チェック、治療とリハビリを行い、職員と情報を共有している。現在はコロナ禍ということもあり他科を受診している方はいない。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は看護職員に日常の様子を伝えたり相談したりする時間を作っています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と連携をとって受診の際には利用者にとって最善の方法を話し合っています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者交代や職員の入れ替えが多くあり、看取り等の十分な準備ができず行っておりません。	今年度は、利用者の健康状態も安定していることもあり、予定していた「看取り介護」の研修は、緊急を要する「感染症予防対策」に変更した。	最期を住み慣れた事業所で迎えたいと希望する利用者と家族の要望に応えられるよう、事業所の人員体制が整えられ、「看取り介護」の研修が行われることを期待します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員に定期的な研修を行い、対応できるよう努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民との避難訓練を行い、全職員が対応できるよう努めています。	例年10月に、地域住民の参加を得て避難訓練を行っている。今年度は実施出来なかったが、事業所のみで夜間想定 の訓練を行い、避難経路及び誘導等の 検証を行った。地震対策として滑り止 めマットを敷いて家具などの転倒を予 防している。事業所を囲む塀について は、運営推進会議に参加した住民代表 に安全性などの確認をしてもらっている。 備蓄品は各ユニットでリストを作成して 管理している。	今年度避難訓練が1回行われま したが、来年度は2回実施する ことを期待します。また備蓄 品の水、食料などの準備はさ れていますが、人数と何日分 かのおおよその目安が分かる ように数量管理することを期 待します。
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的な研修、勉強会をはじめ、ケアの中で気になる点があればその都度スタッフで指摘し注意をはらっています。	トイレトペーパーやキッチンペーパーを収集する認知症状の方に対して職員は話し合い、その方の行動を否定せず に居室に集められた物を利用者と一緒 に整理して再利用するなどの対応を している。また耳の遠い方が「笑わ れた」と勘違いしてしまうことがあ り、入浴介助などの1対1になれる 時に誤解が溶けるような声掛けを している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で思い希望を見つけ「○○してください」、ではなく「○○いいですか？」等の問いかけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のやりたいこと、したいことを優先し、個々の支援を大切にしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用したり、洋服選びなど身だしなみに気を付けています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼の食事を一緒に考え、下ごしらえや調理、配膳、下膳など入居者様ができることを行っています。朝・夕の食事は献立付きの食材が配達されるので入居者様と調理しています。	朝と夕食はレシピ付きの食材が配送され、昼食は職員と利用者が一緒にカタログを見ながらメニューを決めて注文している。調理（食材を切る・煮る・揚げる等）、配膳、片付けまで職員と利用者は一緒に行い、3食とも職員と一緒に食べている。敬老の日は利用者の希望で寿司の出前と敬老用のカステラで祝った。年末には煮しめ、なます、栗きんとんを作り、おせち料理に添えた。嚥下困難の方も医師、看護師の意見を聞きながら栄養補助食品を利用するなど利用者の状態に合わせた支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状況に合わせた食事量、食事形態を考え提供しています。毎食栄養バランスを考え医療との連携にて1日の水分量をチェックしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の口腔状態に合った口腔ケア、義歯洗浄を行っています。また、訪問歯科を利用し、定期的に口腔内チェックをしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄確認表を活用しながら、個々の排泄パターンを把握し、体の状態を考慮して、パット内ではなくトイレで排泄ができるように心がけています。	職員は、排泄確認表を記入し利用者の排泄パターンを把握している。トイレに行きたいと感じて立ち上がる時の腹圧による失禁やトイレまでの移動中に失禁してしまう利用者には、様子を見て少し早めに声掛け、トイレで排泄できるよう支援している。また現在オムツを使用している方も看護師の介助でトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々にあった無理のない体操を行ったり、食事内容を工夫して自然な排便ができるように心がけています。便秘時は医師に相談し緩下剤で対応。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人の希望に沿えるよう、入りたい日、入りたい時間に声掛けをしています。入浴中でもできる限り本人の希望に沿ってゆっくり入浴できるよう心がけています。	利用者は週2回、午後の時間帯に入浴をしている。午後に行事がある時などは午前中に入浴する方もいる。職員は利用者と1対1になる入浴介助の時間を利用者の思いを聞くことができる時間と捉えて大切にしている。湯は一人ずつ入れ換え、暖房器具で浴室と脱衣所の温度差がないようヒートショック対策を行っている。利用者はゆず湯、しょうぶ湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のタイミングでお休みになっています。支援が必要な方には体力消耗などを考え、声掛けし促しお休みになれるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の協力と、服薬支援機を使用しています。声を出し確認を行うなどの誤薬防止につとめ、往診時も施設看護師と薬剤師に同席していただき適切な服薬支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の家事の役割分担をしています。おうちコープなどで嗜好品などを選んでいただいています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、少しの間庭に出るなど行い、ベンチに座る際はソーシャルディスタンスをとっています。ご家族は希望があればオンライン面会にて対応しています。	散歩や食材の買い物などで近所への外出が常となっていたが、現在は自粛している。しかし広い庭には東屋やベンチがあり、秋に植えられた野菜の水やりや収穫を利用者は行っている。気候の良い時期には、庭でおやつを食べるなど、コロナ禍でも利用者は季節を楽しむことができている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で行っていませんが、ご本人が希望したものをプリントし、色や大きさがわかるようにしてご家族や職員が購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話や手紙のほかに、オンラインでの通話も利用していただけるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月ごとに季節感に合わせた飾りつけを行っています。日の光や温度など入居者様に確認しながら行っています。	2階ユニットは天井が高く、天窓からの採光を楽しむことができる。各ユニットの壁には、行事の写真や季節の作品を飾っている。毎朝9時半頃より職員が掃除を始めると利用者もそれぞれモップを持ったり、手すりやドアノブの消毒をするなど皆で協力して掃除を行っている。その後に10時のお茶の時間になるのが日課となり、気持ち良く一日を始めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日にあった環境（体調、気分）で過ごせるように、テーブル席、ソファ席と用意し居場所の固定が極力内容に配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は使い慣れたものを使っただけでなく、ご本人様の趣味嗜好に合わせた装飾（写真、絵、創作物等）をして頂けるようにしています。	居室には空調設備と照明、防災カーテンが設置され、利用者は自宅で使用していたタンス、テーブル、テレビ、仏壇などを置き、家族の写真や思い出の品を飾っている。利用者の誕生日には職員が一人一人をイメージして注文した花束（ブーケ）が贈られ、利用者の居室を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札などで表すだけでなく、イメージでお風呂など分かるようにしています。		

事業所名	グループホーム華寿園
ユニット名	こすもす

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個々の意思を大切に」「穏やかな生活」とあり、一律のケアではなく、個々に対してのケアを重視しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、地域のイベント等は中止、または参加できていません。運営推進会議では施設外の庭にてソーシャルディスタンスを保ちながら定期的に行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などでの現在の認知症に置かれる状況の説明、また現在の地域の状況などの説明の場としています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長や入居者様のご家族から地域の情報をもらい、日々の生活の情報源の一つとしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢支援課、生活支援課など電話でアドバイスを頂いたり説明を受けたりしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部での定期的な研修を行い、身体拘束に対する意識付けを常に考えています。環境を作り実施しています。玄関の鍵かけはなくセンサーチャイムも使用せず、一般家庭にある玄関ベルで対応しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部で定期的に虐待に対する研修を実施しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を実施し、周知に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等のすべての説明に加え、契約前にも質問点、疑問点を確認しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時や、毎月のお便り、お電話にて現在の報告、また気になったことなどの話を伝えたり、話をできる時間を設けています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度職員にはなしかけたり、カンファレンス等で質問ができる時間を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体系を明確にし、不平等にならない能力の評価を給料に反映させています。個々が役割をもって業務にあたっています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマを決め、社内研修を行っています。社外研修においては、新型コロナウイルスの影響を考え、今年度の参加は見合わせました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同じ系列のグループホームの勉強会に参加しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人の面談を実施し、要望を聞き取り、ご家族、ケアマネージャーとの面談も合わせてご本人様の様子を確認し、本人様との関係づくりを心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面談を実施し、不安な点、要望など聞き取りを実施しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の様子を見ながら何をしたいのか、何ができるのか見極め、やりたいことをできる環境を作るための支援を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、調理、食器片づけ、洗濯物干しなどできる家事は参加していただいております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナ渦であるため、直接の面会はありませんが、オンライン面会や希望がある方は定期的に電話連絡を実施しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の方などは定期的に電話をかけて頂き、直接話をされる環境を作っています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個性、相性をその都度確認しながら、席や家事手伝いの組み合わせを考えています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も管理者を中心とし、本人を訪問したり、家族と連絡を取り合っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中やご様子などを日々確認し気づいたことは共有できるようにしています。常に「〇〇さんだったら」の視点で考えるようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の会話の中から、またはご家族様からきいたり、ご家族様の来訪時に質問をしたりして生活歴を確認しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録により一日の過ごし方の確認、今日は何をしてもらった、どうだったかを記録に記載しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的に三か月に一回のケアプランの見直し、その都度ご本人様の様子、要望、ご家族の要望の確認をし、ケアプランに反映させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録の記載をし、いつもと違う様子があった場合には、別途書きこめる欄を作り共有しやすい記録に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の会話の中や心身状況に応じて柔軟な支援やサービスを取り入れています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	去年はコロナ渦で中止でしたが、お祭りやイベント等へ参加できるようにし、地域と交流を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の説明、同意をご本人様、ご家族からもらい、定期的な往診の実施、また急変時の連絡方法の構築をし適切な医療を受けられるように努めています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に日々の状況の説明、相談、またスタッフより看護師に質問等、話し合いのできる時間を作っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の主治医やケースワーカーなど受診の際には話をするよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者交代や職員の入れ替えが多くあり、看取り等の十分な準備ができず行っておりません。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修を行い、また緊急時対応の冊子をつくり周知に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、昼間、夜間を想定した避難訓練を実施しています。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的な研修、勉強会を実施しています。ケアの中で気になる点はお互い指摘しあえる環境を作るようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いや希望をお聞きしながら「○○お願いできますか？」などの問いかけのかたちでお聞きし、意見を尊重しながらの働きかけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間は入居者様のペースに合わせて個々に決定しています。趣味の時間などは全体として行うものだけでなく、個人の嗜好に合わせて行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を活用し、好みのヘアスタイルに仕上げられています。また好みの洋服を選びおしゃれを楽しみ、身だしなみにも気を付けてます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍であるため、買い物は宅配やカタログから一緒にえらんだりしています。昼食は冷蔵庫の中身より自由なメニューを入居者様と考え、調理、片付けにも参加していただいています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状況に合わせて食事の量や形態を考えています。また医療と連携して栄養状態に配慮しています。状況に応じて個々の水分量をチェックしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を利用して口腔内の状況を確認しています。また義歯の衛生管理を職員にて定期的に行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間を決めた定期的な誘導にならないように気を配り、本人の意思はもちろんのこと、パット内ではなくトイレでの排泄ができるように心がけています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の工夫や牛乳やヨーグルトを活用するなどして、自然な排便ができるよう心がけています。便秘時は最小限の医師処方薬の緩下剤で対応。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の入りたい時間に配慮し、入浴の声掛けを行っています。またゆっくりと入浴できるように、安全や羞恥心には気を配り声掛け他、支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リネン類の清潔保持に努め、居室の温度にも気を配っています。ご本人のタイミングでお休みいただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の協力と服薬支援機器を使い、誤薬防止に努め往診時も薬剤師に同席してもらい、適切な服薬支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やりたい事、出来る事を生活の中で見つけ役割分担をし日々家事をしていただいています。個々の趣味を続けられる様、必要な物嗜好品など家族の協力も得て購入しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であり、外出ができてません。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍であり、買い物には行っていませんがご本人の希望するものがあれば職員が代行し希望のものを購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に電話を掛けたり、希望があればオンライン面会をしています。電話や手紙のやり取りの支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に季節を感じられるようにリビングの飾りを変えたり工夫しています。日の光などはその日により入居者様に確認しながら、あるいは入居者様自身が調整をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のテーブル以外にもソファ一席を設け、思い思いの場所で過ごせるように配慮しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は使い慣れたものを使用させていただいてます。また写真やご自身の好きなものを飾れるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札などで表すのではなく、イメージでお風呂など分かるようにしています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム華寿園

作成日 令和 3 年 6 月 10 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	避難訓練が1度しか出来なかった事 備蓄品が人数が日数を考え管理し2113なのか？	今年度は避難訓練が2回実施できる様に計画をたて実行する 備蓄品を見直しある。	地域住民との避難訓練を行える様新しい方法を考える。備蓄品の種類や数量を見直しを行う。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。